



医療法人社団清心会

藤沢病院

●神奈川県藤沢市

# 社会復帰までを視野に入れ、 地域に根差した循環型支援を実現

昭和6年に『鎌倉脳病院』として開設以来、時代の変化に敏感に対応しつつ、地域における精神科医療の中核を担ってきた医療法人社団清心会藤沢病院。近年では、病院という枠を超え、有限会社やNPO法人と連携し、社会復帰後の生活までをサポートする循環型支援に尽力している。



藤沢病院は、常に時代の要請に応えるかたちで成長を遂げてきた。歴史が培ったノウハウを最大限に活かしつつ、現在では、急性期治療病棟Iを60床、精神療養病棟を6病棟354床、精神科一般病棟を2病棟81床の計495床を抱える。デイケア平均40名、訪問看護も年間1000人以上を受け入れ、地域に欠かせない存在として、安定した精神医療を提供し続けている。

## 病院、有限会社、NPO法人、 三位一体だからできること

藤沢病院の大きな特色とも言えるのが、退院後の社会復帰を視野に入れた生活支援。「心のこもった地域精神医療」を理念とし、病気だけを治すのではなく、人そのもの、人生までを含

めて見ていくことが重要と考える藤沢病院にとって、患者の社会復帰を促す就労支援は大きな課題。そこで、院長の石井紀夫氏は平成4年に有限会社ウイズダムを設立し、退院した患者に院内の清掃や病棟のワックスがけの仕事を提供する支援事業を始める。労働力として病院に活かされ、その対価として賃金を得る「循環型支援」。さらに、有限会社の社員として勤務実績を得ることは履歴書に記入できるので、その後の就職活動にも有利になる。有限会社としたことにはこんな背景も覗く。

就労支援に続き、平成15年には、テラスハウスを活用した住居支援サービス「ウイズ」をスタート。家族に同居を拒まれたり、住居が借りられなかつ

たりと、患者が退院後の生活の場に困り、社会復帰の第一歩を踏み出せずにいる状況を改善したいと考えていたところに知人より空き物件の申し出があったのがきっかけ。有限会社の事業の一環として着手に踏み切った。当初は同区画に一般の入居者が住んでいたため、理解が得られないのではとの不安もあったが、想定以上の協力を得て地域住民とともに生活しており、年に2回、一般住民とともにバーベキューパーティーを楽しんでいるという。

平成17年からは、自立度が高く、一人暮らしを希望する方のためにワンルームマンションを借り上げた「サテライトウイズ」も手がける。藤沢病院のスタッフによる医療サポートや民間業者による配食サービス、ホームヘルパーを



「当院のホームページにある『精神医学教室Q&A』は、とてもわかりやすいと高い評価を得ています」と、作成した職員たちも誇りだと語る石井院長。



昭和初期の藤沢病院で行われた運動会の様子。歴史ある病院であるため、地域と密着した幅広い活動が行われている。



(有)ウイズダムが提供している住居提供型生活支援サービス「ウイズ」の外観。その取り組みが評価され「精神障害者自立支援活動賞(地域医療部門)」を受賞した時の模様。(右)

導入し、社会復帰を目指す患者にとって安心・安全の体制が整うウイズだからこそ実現できたことと言える。

関連施設としては、NPO法人健康医科学協会が運営するグループホーム「はうす・たんぼほ」も存在する。有限会社とNPO法人、病院がそれぞれの特長を最大限に活かして、連携するからこそ、患者個々が置かれた状況に細やかに対応できる。これらが一体となった充実のサポート体制が、藤沢病院の強みだ。

### 藤沢病院を支えるボランティア「ほうらく」の存在

ボランティアの受け入れを躊躇する精神医療機関も少なくない中、全国に先駆けて始まった専属ボランティアグループ「ほうらく」も藤沢病院の誇りのひとつ。平成20年で10周年を迎え、登録者数は約100名、昨年は述べ1400名を超えるボランティアの参加があった。病棟内での患者サポートを始め、藤沢病院祭などのイベント運営も行う。イベントは地域住民にも開放され、地域の子どもたちも参加する。「患者との自然な交流が、精神疾患への理解へつながれば」と石井氏は言う。

### 「知らないこと」が偏見につながる精神疾患への正しい理解を

藤沢病院は、「隠さずオープンに」をモットーとする。地域住民やボランティアに開かれた病院の在り方はその表れだろう。病院見学も気軽に受け入れ、包み隠さず見てもらう。かつては、社会から隔離される対象だった精神疾患も、いまや身近なものとなりつつあるが、偏見はまだまだ根強く残る。「なぜ偏見がなくなるか。それは知らないから。見て知ってもらうことが大切」と石井氏。藤沢病院では、地域の祭りの休憩所として病院の敷地を提供し、患者と地域住民の交流につなげたり、正しい知識の普及のために公開講座を開催するなど、偏見を払しょくするための活動を展開する。

### 精神医療の未来を見据え生活習慣病や認知症への取り組み

藤沢病院が、目下、力を入れるのは、現代人の抱える問題でもある生活習慣病(特にメタボリックシンドローム)予防。精神疾患の患者、とりわけ長期入院患者にも多く見られるため、京都大学や横浜市立大学の専門家とともに、

研究と改善に取り組む。院内全面禁煙も患者の健康を考えた試みだ。院内でニコチン依存症という新たな病気を生み出しては本末転倒と考えた上での決断だ。患者が身心ともに健やかであるよう、地道な取り組みを続ける。

藤沢病院にとって、患者の高齢化も大きな課題のひとつ。精神疾患を抱えながら認知症を併発した場合の困難さは計り知れない。また、地域の高齢化がさらに進む中で、認知症は精神医療が避けて通れない道。そこで、来るべき将来を見据え、病棟内に50床程度の認知症病棟を創設することを視野に入れる。

先代から脈々と受け継がれる“愛”と“和”そして“奉仕”という理念に基づき、地域に開かれた病院として邁進する、藤沢病院の先進的な試みに今後も期待が集まる。

医療法人 社団清心会

### 藤沢病院

- 【所在地】 神奈川県藤沢市
- 【開設】 昭和6年7月1日
- 【病床数】 495床
- 【関連施設】 精神障害者自立支援施設「はうす・たんぼほ」、介護老人保健施設「清流苑」、在宅介護支援センター(藤沢市委託事業)有限会社ウイズダム、居住生活支援サービス「ウイズ」、「ウイズ」サテライト